

## 開会挨拶 済生会理事長 炭谷茂

済生会理事長の炭谷でございます。今日は皆様方お休みのところ、またそれぞれいろいろとお忙しいところ、この子ども支援フォーラムにお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

このフォーラムは、済生会生活困窮者問題シンポジウム、第14回目にあたります。われわれ済生会は、明治44年に明治天皇によって設置されました。ちょうど113年経ちます。われわれ済生会の設立の目的は「施薬救療」、大変難しい言葉ですが、生活に困っている人に対して医療や福祉サービスを提供していくために済生会が設立されたわけです。

113年前のことですから、当時の生活困窮者の問題といま現在の問題とは大きく異なるんですね。でも、私は、生活困窮者の問題というのは、113年前に比べればいまのほうがもっとも増えていてのではないかと実感しております。今日お集まりいただいた方もそのとおりでろうなと思っていただけるのではないかと思います。

量が増えているだけではなくて、その解決が大変難しくなっている。たとえば精神障害や発達障害に伴う問題、元受刑者のような問題、いろいろとあります。今日はその中でも子どもに着目して、皆さん方と一緒に考えたいと思っております。

子どもについての生活困窮者の問題。特に日本のお子さんの貧困、貧困家庭の子どもが大変問題になっております。OECDの先進国の中でも生活困窮者の子どもの割合は非常に高いグループに属しています。

その他、お子さんについて言えば、引きこもりの問題、不登校の問題、また最近では非行の問題や、大変悲しいことに自殺者、小さい子どもでありながら悩み事があるのでしょうか、自殺をする子どもまで出てきている。大変大きなたくさん問題があります。

われわれ済生会は、このような問題に対して積極的に対処していこうということでいろいろな行動を起こしています。このシンポジウムの主催者は済生会の特別養護老人ホーム彩光苑ですが、彩光苑ではたとえば県立埼玉大学の学生さんの支援、ボランティアを受けながら、特別養護老人ホームの中で貧困の家庭、特に一人親家庭のお子さんなどに対して勉強を教えるという活動もやっています。

このようにいろいろな問題に積極的にかかわっておりますが、今回のシンポジウムもその一環です。皆様方一緒に考えていただきまして、今後の活動の参考になれば大変ありがたいと思います。どうか今日のシンポジウムが皆様にとって実りあるものになることを祈

りまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。(拍手)